

【助成採択者情報】 ※申請書記載内容に基づく

採 択 年 度

2021 年度

氏 名

采野 優

所 属 機 関

京都大学大学院 医学研究科 腫瘍薬物治療学講座

課 題 名

がん患者の遺族を対象としたセルフコンパッションに焦点を当てた新規心理療法の開発：実施可能性試験

助 成 額

3,000,000 円

研究報告概要

【研究の必要性】 がん患者と死別した遺族を含む重要他者（以下、重要他者）は、2～6 割が抑うつなどの気持ちのつらさを有するが、それらを専門家に相談する割合は 3.5%に留まる。そもそも病人ではない重要他者にとって、受け入れやすく有効な介入の開発が望まれる。

【目的】 がん患者と死別した重要他者を対象とした、Lay Person が主導するセルフコンパッションの向上を標的とした新規心理療法の実施可能性を検討し、副次的にその有効性を検討すること。

【研究方法】

対象：緩和ケア病棟、訪問診療、患者支援団体を利用していたがん患者を、6 か月以上前に亡くした人で、患者の療養に中心に関わっていた人。

デザイン：単アームの実施可能性試験

介入：ウェブセッションにて行われ、セッションは、①心理学の教育、②セルフコンパッションの向上、③レジリエンスの強化で構成され、死別の悲しみを理解し、自らを強靱に支援する心理状態を目指す。介入は、心理学において修士号以上の見識を有する臨床心理士が担当し、担当者は事前に構造化された訓練を受ける。セルフコンパッションの向上に必要な介入強度は、合計 11 時間の介入とされ、ウェブセッションは 1 回 2 時間、5 週間にわたり開催する。

アウトカム：主要評価項目は、介入完遂割合・PHQ-9 とする。副次評価項目は、GAD-7、セルフコンパッション尺度、ブリーフ・レジリエンス尺度等を、介入前・介入終了時・介入終了 3 か月後の 3 時点で測定する。

【倫理的配慮】「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に基づき計画・実施される。

【期待される結果】 研究参加者は 9 割以上の高い介入完遂割合を示し、介入開始前後で、種々の心理尺度の有意な改善を示すことが期待される。また、研究参加者同士の横のつながりが醸成され、ピアサポートの関係が構築されることも期待できる。